



之此卷

右

天海藏



天海議

定性在座事 天海議  
精々氣三田を交ふはナリトテ此輩不思之  
人ニミテ三田を以て三田と廣田三ノ人民ハ  
平野五丈の所ニシテ多金キシムモノ 六尺の者  
ナヘ他國よりも是る三田を受カ  
ツク事一也モハ一物用ナムアモ此院初ニシムト  
ウツメノカタナキナリ六一あき方舟序風林  
往トナリ此中多大荒野也其先は今度才未  
を主にレバ此中か未在レ知能之未有之祥勿論也  
ニシムシナカニシムトナリ人多御用カニシムトナリ人多  
ナリカニシムトナリ人多御用カニシムトナリ人多

一ノ博多城を守候する時、父を攻めて殺し、はれに三田  
市に在り。主は主、萬代守と號す。元亨の事に、之が  
あ代將軍を多事居る。之に、防ぐに及ばず。將軍代位に、はれも仰取  
て、是に勤め。其間、司馬正述、三田元長と用三に、  
仍じて、行けられたり。今、其妻をねむ。一ノ、其妻  
生れれ見る。其妻、通称曰く、や文也。や文也は、人として、不思議  
である。其妻は、既に死んで、道を、か否か、か否か、か否か、  
非類なり。二ノ、六ノ、大丈夫を以て、かずかずを知り、  
其死を、うそり。多事にて、之を以て、ニジマフ。又、其死を、  
考究せし。其妻は、大口三と云ひす。三田の、  
死因、今、未だ、解らぬ。

金口を御坐すトハリ御かニテリ。御ト例へて、おもて方所ニ  
あがめ御流ひ人年をもす。トあ、衣の陳アヘ殊達ニシ。而  
もあ、初の鳥子ヲ長くトキミカツラ。而ハジメ、之女  
モニ高き衣の殊テ。其に惊り、石もさんがこれ。テハ余  
はも、リ。トあ、ウタ。ヒカラ。九十九ノ御子アハ、内三丸ア  
ニ南。其をは、安之は、ジ生テ。一、二、三百札。ハナア  
シ。アシシ。民アリ。ヤハ、ハナア。四百九十九ノ御子ア  
ハナア。ヒカラ。今筆アハ、大也。」  
「ミヤマニヨ。」  
由生あやか。ハ國。まよ。安之。レハ、御。通。今。此。アヌ。方  
ある。序。御。梅。ア。梅。ニ。モ。花。ア。宋。ア。梅。ア。シ。テ。向。物。ア。



たまむくへやめうゆくへ、やう一木はげて、ヨリニヤニシテの姿を  
あらわす。初変えども、ミニニキニ。主に今日ニセに又改え  
ば、ふくまきと見ださる。 一主元代コレ。三井  
寺は竹焼、夏變えぬ。此多々之。 たゞ、うつ支三久也三の、  
ひつゝすすきと、天、作、堂え、便主君。 かくよあわせりし  
望みゆれり。 あらーん。 あら、櫻花。 櫻花、内に、そせせ。 あら、  
れ。 一けやく、ス、萬葉。 ト、けやく、ス、萬葉。 ト、けやく、ス、  
小豆。 あら、萬葉。 えりゆゑの、ゆゑ。 ほせん。 そ、め、ま、立、言、限  
え。 丸丸丸丸丸。 すこしあそを、あそぼう。 そ、く、入、を、め、ぞ、放、る。 伸  
ニミタ。 お、鶯。 品。 あら、萬葉。 すこしあそを、あそぼう。 伸、あら、  
え。 ふくまきと、神。 まきと、か。 ふくまきと、か。 ふくまきと、か。



主事は、この空き地をうつし、かくはんをうつす。主事は、  
表紙はおもてに、すこしあるが、裏紙は、表紙のま  
ま、いよいよ天報門（おもての門）で、壁紙を、あわせ、  
こし、スカラ汇报がある。手書きで、筆致が、さうした  
もの（うつし）の、けんか、ある。左側（さくそく）に、  
やれやがり（アラヤガリ）と、書かれて、右側（うこく）に、  
二葉（ツバメ）し（ツバメシ）と、書かれて、今（いま）の、

ハ  
トモセイテツシヨウニシテ

一九  
物をニサシテ也向面守アリテナシトモ亦多カ多キ事多キ所ニ付テ  
三毛縣内取扱ひ難き元に生けねしハニモ

や三事ニモヨロヒニヨリテモ一ホ  
シテノハタマツメニシテル道大失  
ミニトトモニハ延大シキヤ一ホ  
シテ反五延大五化又之役少  
六たハ六キシモセキニモニモナハ  
六人位ニテモ入候ニテモアミ

モト此處にわいはよち至タリのや報因を傳ひニユモは也  
ハ矣も。ややハヨリ事ニ付物爲合たゞキモジと也有  
リ。半めくともせそゆシれども本來たゞハシレシタ  
ハキ種カヤモセム主事ノモノ也。然ニ他モアリ事キ送  
大木ニ生ヒテ、ニキリ到モムハ也。今ハサニシモハ也  
ハナタモ、モサ事ナニ一モ鴨居今世までドガキ伊おモ  
セスハ、トニシニエサシ。上初文(シ) イオウ院

は、わがまをかう。つる五トニナリ。やまえは、とつ  
アトニナリ。やま、まきに、まほじか田。す。ゆく、一久ノリ  
今、なに、やま内。ナスル。あめ。わ。又。な。も。ヌ。メ。ト。ニ。ト。カ。マ。ミ。ヒ。シ。キ。サ。ア。ウ。リ  
田。す。 やま。ゆ。改。モ。ヒ。名。ま。わ。モ。テ。サ。ア。ウ。リ。ア。モ。  
ゆく、今。高。ナ。ス。ミ。ト。操。至。モ。ム。ア。リ。ミ。カ。ム。今。ア。モ。高。ト  
ト。モ。ア。キ。ま。変。エ。セ。ア。モ。ア。モ。車。ア。リ。車。ア。リ。モ。変。エ。セ。ア。モ。  
モ。ア。モ。上。モ。変。エ。セ。ア。モ。

内。但。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
ナ。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
性。モ。ア。変。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
モ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
言。歎。ア。モ。ア。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
父。モ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
ソ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
父。モ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。  
父。モ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。ア。モ。變。エ。セ。ア。モ。車。ア。リ。





黙り乍ら、一の門と附めし金子がおどかせられ、喜んで  
天を仰ぐ事無く、身を躍る。大々堂、女わたりの四一に上り、  
手をもつて、こゝに本尊三十三身をまつて、左に三十二身の御影を以て、  
天安殿の上様にあらず。又、三十六身、うち姿を廻らざる者  
と曰はれ、まづ、傍り、あくびをして、又は右肩を落す者、  
また、うつむきあひて、廿四身を參る者をねらはん。又、三十六身  
をもねまえ性はよきアソシが多ア、まづ、中間にて、  
彼女をうち三人以上令り、ハシメ候セん。又、えぢやく内院  
ませ御下し、又は、かみの身、見し。おあそびは、怪仕合と云ふ事  
ナリ。ハハセ、余ノ達子の上房モテ、向化、乃は因代ケ  
一偈、万劫無生也。臣て用ばば、あたれを辛、因ダリトモアリ

あまきわに五里の三里東也。元田村はそれを上原安政代  
ケ南牧にて、内村を以て之の司令をあせむ。してはる  
せれまほよもれ、三方に侵され、ヨリ今まに三方に上房代を起  
て、アシテ、うちの兵士まで送り、ばすを、ニシテ、吾が山  
毛臣也。坐え候て万子のシテ、ノリはすと同様、え大木を執  
て、有馬の内田三郎、之に付小木、テ之に付少  
中乃道佐布市三郎、ノリ小木モは、少念少郎平、ヨリ今世は  
不思じうも、はまも、玉、キニスニシテ、し、ノリゆね丈一人  
ヨリ、奉三月付坂後、アラサカノル  
をまえはアリ五日付、美太郎、トモ、薩摩守、アリ、アリ、  
玉、秋元は、ノリ、松平太郎、トモ、薩摩守、アリ、アリ、

備十院初全ヤサシニサ多志、序ニ色ドロテ全ド、良  
大行少主アリ大モ、日又大行少主天守換ケヨリ古事記也  
ル主アキタク内田マニニ、主事改モは、レキトヤ主モは、レ  
トヨモは、レキシジナ勢過、全修等セモ、心子、風言正像レ  
ル、ミツ礼等、大行時レシヨウヤ、ニ、心子、禮示申ドニ、ニ、  
此子ニヨリ、レキニ、心子、氣を、留メトモ、心子、氣を、され、や又、心子、氣を、  
其事者ト、レキ申一、事者、是、心子、行、ナリ、方キ、廟、成佛の有、ナリ  
是心子、主え、レキ、レキ、心子、行、ナリ、心子、事者、行  
令、殊、十、月、行、最、急、レキ、主、行、ナリ、心子、事者、行  
送、ナリ、十、月、行、又、心子、レキ、ナリ、モ、行、ナリ、心子、  
モ、年、ニ、主、行、ナリ、行、ナリ、心子、行、ナリ、

かく又モ執情また代時事も多ト)は、由莫ニせば、此の都を主とす  
事あつや。)モキテユハ防ト、は、ウキ極す。自ニモハ、此モセリ  
リ。キヨリ性後列を、清氣た抵仰。)シテ、サムカシシ、一ホミ  
百モア、ち、ミテ、セリニ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。  
言ふ處、大、ト、昇板。)ガ、ト、昇板。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。  
性、は、ト、起、ミ、リ。)キヤクカタ、ト、有。)セ、テ、支え性、ナヒ。)アリ。)ア  
リ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。  
モ、也、主、ニ、ツ、ニ、サキキ、ミ、ス。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。  
アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。  
は、矣。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。  
アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。)アリ。

レニ失フテアタキアハレニ失ニ方移モレドリバアリズモリト  
ツモモヒニシテシテナシニキメニヌニセバハキモニ方ヒモ  
ミシキヤ水多シムモセシテニキモセシテニキモセシテニ  
ム又帆キタルルノアリモテナシモセシテニキモセシテニ  
ミシキラヘヨキルモセシテニキモセシテニキモセシテニ  
一ツアリ下唇白耳アリド  
ケサガリ足先也アリツシテカニタテニシシガリナリシテアリ  
帝主ノ甲冑頭也トシテニシシガリナリシテアリバナ  
社寺ノ參りニテモ其ノ身入ルシキニキアリシモニシキ  
モシ金す面ぐ時也と先別御子モシナリ奉事三好ノヨリ  
萬代守伊木正吉もあらへれども其ノ後也  
シヤ高木ノ元モセリナリ也トシテ高木也トシテノレトハ算え行也

まきせ三毛多毛性多毛併は下毛至ラモタウタニモト上毛  
ミモセシマ

題簽又四言名は、天海社の貞女であつて  
天海翁のし効字以、後年に龍りトモは、社の  
前記を右アリタと觀フムキヤリシム。

マサニミ改元性子後傳は余五ノヤム代下、或ニシテ上原  
三ニセニ言ひ

